

スポーツ，趣味，娯楽，休養は1日の23%

— 社会生活基本調査 —

昭和51年10月に、我が国で初めての「社会生活基本調査」が実施され、その結果が去る10月9日総理府統計局から発表されました。

この調査は、サブテーマを「新しい生き方を求めて」と題しているもので、その内容はテーマの示すとおり、高度経済成長から安定成長へと経済が転換するなかで、これまではどちらかというと経済活動を中心にとらえてきた国民生活を、全く別の新しい観点からとらえようとしたものです。

すなわち、経済活動の陰にかくれていた自由時間ないし余暇（これを第3次活動という。これに対し睡眠，食事等の生理的に必要な時間を第1次活動，有業者の仕事，主婦の家事，学生の学業など義務的拘束時間を第2次活動としている）の面に焦点を当てて、国民生活の実態に関する基本的資料を得るとともに、将来どのように変化してゆくかを探ろうとしたが、この調査の大きなネライとなっています。

調査は、51年10月17日から23日までの1週間、全国から選ばれた約7万5千世帯の15歳以上の世帯員18万5千人について行われました。

調査結果のうち、主な事項は次のとおりです。

1次，2次，3次活動別行動時間

国民の生活行動時間は1次活動45%，2次活動33%，3次活動23%

国民の生活行動時間を、睡眠，食事，身の回りなどの第1次活動（生理的に必要な活動），仕事，家事，育児，在学者の勉強などの第2次活動（義務的，拘束的な活動）及びスポーツ，趣味，娯楽，休養などの第3次活動（余暇）に分けて、1週間を通じての平均1日の生活をみてみますと、1日24時間のうち、1次活動は10時間42分（45%）、2次活動は7時間51分（33%）、3次活動が5時間27分（23%）となっています。

1次活動時間は、男10時間41分、女10時間42分と差があ

りませんが、2次活動時間は、男7時間38分、女8時間4分で女の方が26分長く、この分だけ女の3次活動時間が短くなっています。

また、年齢別にみますと、1次活動時間は男女とも高齢者が若干長いほかは年齢による差は少ないのですが、2次活動時間は、在学者の多い15～19歳を除いて男は30代（8時間25分）、女は40代（9時間9分）がピークとなっており、3次活動時間は、逆にこれら2次活動がピークの年齢層で最も短く、65歳になると、2次より3次活動時間が長くなり、余暇時間の方が多くなってきています。

表-1 国民の生活行動時間

男 女	時間（時間、分）			割合（%）		
	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
総 数	10.42	7.51	5.27	44.6	32.7	22.7
男	10.41	7.38	5.41	44.5	31.8	23.7
女	10.42	8.04	5.14	44.6	33.6	21.8

表-2 男女，年齢，行動の種類別平均時間（時間、分）

行動の種類 年齢	男			女		
	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
総 数	10.41	7.38	5.41	10.42	8.04	5.14
15～19	10.10	8.26	5.23	10.16	8.59	4.45
20～24	10.25	7.42	5.52	10.43	7.59	5.18
25～29	10.29	8.10	5.21	10.39	8.37	4.44
30～39	10.32	8.25	5.03	10.27	8.58	4.36
40～49	10.34	8.15	5.11	10.17	9.09	4.34
50～59	10.43	7.50	5.26	10.36	8.17	5.07
60～64	11.03	6.36	6.21	11.04	7.00	5.57
65～69	11.27	5.14	7.19	11.27	5.46	6.47
70歳以上	12.15	3.02	8.43	12.23	3.21	8.16

3次活動の内容

3次活動時間の約3分の2が休養，息抜き

3次活動は、学業以外の勉強，趣味，娯楽，スポーツや奉仕活動などの積極的活動と、交際，テレビ，新聞雑誌，休養，くつろぎなどの消極的活動とに分けられます。

3次活動のうち、テレビ，休養などの消極的活動時間の

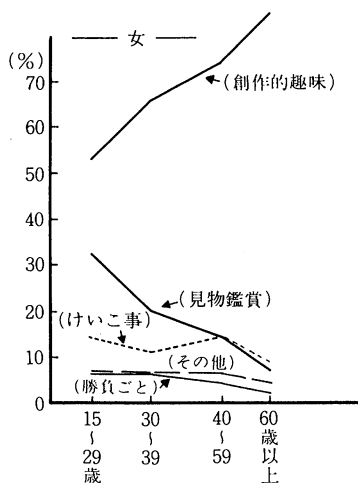
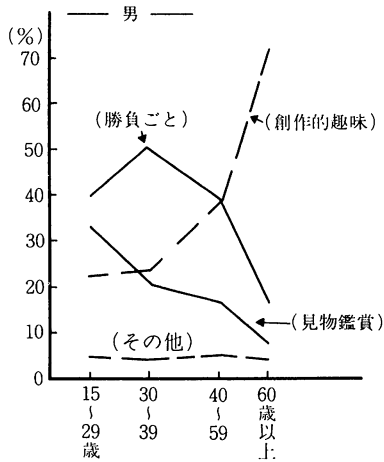
占める割合は、男63%、女68%で、3次活動の約3分の2が休養、息抜きなどにあてられています。

この割合は、年齢が多くなるほど高く、女50歳以上、男65歳以上では70%を超えています。

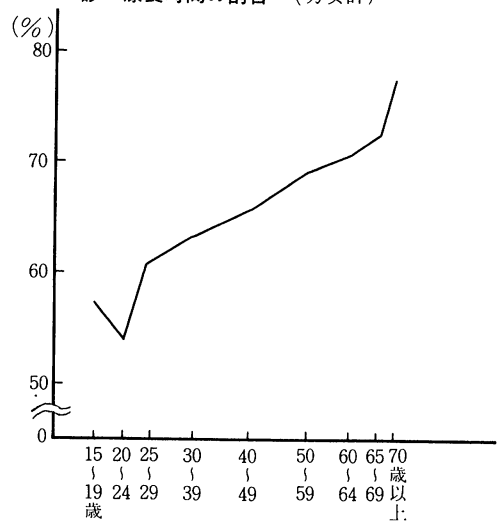
なお、20~24歳では実際の時間が長い為、3次活動時間のうち、テレビ、休養、くつろぎなどの占める割合はとくに低くなっています。

また、3次活動のうち積極的活動をみてみますと、男女とも趣味、娯楽が最も多く、男は囲碁、将棋、マージャン、パチンコなどの「勝負ごと」、女は茶華道などの「創作的趣味」となっています。

図一 男女、年齢階級、趣味、娯楽時間の類型別構成比 (スコアによる)



図一 年齢階級別3次活動時間に占める休養・くつろぎ・ラジオ・テレビ・新聞・雑誌・受診・療養時間の割合 (男女計)



世帯の主婦の行動

世帯構成が大きくなるにしたがって、2次活動は多く、3次活動は短くなる。

主婦の生活行動時間を、夫婦のみの世帯、夫婦と子供の世帯及び夫婦と子供と親のいる世帯とに分けて比較すると表一3のとおりです。

夫婦と子供の世帯は、夫婦のみの世帯にくらべ家事、育児時間が1時間半多くなっています。

このため、2次活動時間が多くこの分だけ3次活動時間が少なくなっています。

さらに、親もいる世帯の場合は、夫婦と子供のいる世帯にくらべ2次活動時間がさらに1時間14分長く、したがって3次活動時間は1時間短かくなっており、世帯構成の多くなるにしたがい余暇時間が短かくなってきています。

表一3 世帯の種類別主婦の時間配分

(時間, 分)

世帯の種類	1次活動	2次活動	3次活動			
			う家育ち事児	う買ち物	う仕ち事	
夫婦のみの世帯	10.48	7.34	3.25	0.44	3.11	5.38
夫婦と子供の世帯	10.26	8.40	4.52	0.49	2.49	4.54
夫婦と子供と親の世帯	10.12	9.54	4.24	0.33	4.44	3.55

(県統計課 人口学事統計係 木口)